

## 令和6年度埼玉県自殺対策連絡協議会 議事録

- 1 日 時 令和7年3月24日(月) 18時30分～20時00分
- 2 会 場 TeamsによるWEB会議
- 3 出席委員 飯島委員、中西委員、丸木委員、渡邊委員、芦沢委員、秋葉委員、大谷委員(代理:連合埼玉副事務局長矢島氏)、太田委員、井口委員

- 埼玉県保健医療部健康政策局長による挨拶
- 委員紹介
- 配布資料の確認
- 会議の公開の確認

### 4 議事録:要旨

協議会設置要綱第4条第1項の規定に基づき、丸木委員が会長となり以降の議事を進行。

■議事(1)令和6年の全国と県内の自殺の動向(暫定値)について

■議事(2)自殺対策の取組状況について(埼玉県、さいたま市)

■議事(3)委員からの情報提供

事 務 局:資料1、2、3に基づき説明。

丸 木 会 長:飯島委員、診療所協会として何かご意見はあるか。

飯 島 委 員:診療所協会では、自殺対策委員会を作っていて、毎年自殺した症例を内々で集計している。自殺の症例が少ないのか、報告が少ないだけなのかは定かではないが、自殺者は減っている印象がある。ただ、さいたま市は増えていることを考えると、今後も予断は許さないというような気もする。特に中高生が増えていることが気がかりである。自分のところに来る中高生を見ると、非常に不登校が多いのだが、不登校に対して理解がある親御さんもいるが、中には学校に行ってくれと親御さんから言われて、かなりストレスがかかっているお子さんがいる。家が安らかな所でない、なかなか学校にも行けない、家にも入れないという状況になってしまう。不登校に対する親御さんの理解の部分等、我々も努力していきたい。

丸 木 会 長:病院の代表として渡邊委員は、何かご意見はあるか。

渡 邊 委 員:私はさいたま市の病院なので GPE ネットで未遂者の方の対応をしている。本来は一般の方や精神科ではない医師からの紹介を想定して作っているが、救急からの依頼が多い状況である。さいたま市の自殺者が増えているというところで、受け皿の方が問題なのか理由はよくわからないが、円滑にしていけないといけなと感じた。また、埼玉県の取組で SNS 相談は非常に頑張っていらっしゃると思ったのだが、相談件数が多いので、件数だけでなくどういった内容だったのか、そういう対応としてどういった問題が起こったかということについても知らせていただけるとよいと思う。

丸 木 会 長:医療サイドから色々なお話を伺った。この後は、テーマとしてお子さんのこ

ともお話ししようと思う。スクールカウンセラーの秋葉委員何か気が付くにはあるか。

秋葉委員：高校生くらいだと結構行動ができてしまうので、サイトで調べて自殺の集団のサイトにいってしまいギリギリ助かったケースがあった。あとは本人の支援だけでなく、経済的な困窮だったり虐待だったり、家庭の支援が大事になってくると思う。リストカットや自傷行為をしている子どもがすごく多いので、そういう場合の子供への対応や子供の話を聞くポイント等、教員への研修が必要だと感じている。

丸木会長：チャイルドラインの太田委員お願いできるか？

太田委員：飯島委員から、不登校の子どもたちの学校にも居場所がなく、家庭にも居場所がないというご意見があったが、これをすごく感じている。学校の対応として、登校させてくださいというお願いや指導があると思うが、家庭で少し子供がゆっくり休めるような環境を作れないものかと思う。子供の学び場は学校が一番いいが、学校に行かなくても大学まで行ったりする子供も増えている。子供が責められて家庭にも入れない状況が現実にある。お金を出してもらっていることが子どもにとって一番苦しいところ。家を出たいと思っても出られない。そのため、子供を責めるだけでなく何か考えていただけないのかと今話を聞きながら考えていた。60万枚くらいのカードにチャイルドラインのことを記載していただいていることはとてもありがたいと思うが、子供たちに支給されているタブレットの相談の所に、にチャイルドラインのことを入れてもらうことはできないか。

丸木会長：タブレットに関してアイデアは何かあるか。

生徒指導課：皆様からご意見があったように、自殺にいたるまでの経緯としては、背景が様々あって一つの原因に特定できない、複雑な状況があるということ、我々も承知しているところである。埼玉県として行っている相談窓口を様々なところで周知を図らせていただいている。端末の利用についても、今後我々としても検討していかなければいけないと思っている。市町村とも連携して取り組んでまいりたい。

丸木会長：相談がしやすいシステムは重要だと思う。太田委員に伺いたい。全国のデータを見ると女子が増えていて男子を追い抜いたとのことだが、これに関しては何か考えられることはあるか。

太田委員：相談自体は女の子が圧倒的に多くなっている。家庭などで殴られている男の子が多いと私は思っているが、相談できない。それもすごく心配している。なぜ自分が死にたいと思っているか分かっていない女の子たちが結構いると思う。そこが私たちは分からないところ。子供たちが何をチャイルドラインにきてしているかという、自分のことを分かってほしいとか、自分の努力を認めてほしいとか、止めてほしいというところがメインだと思う。それがSOSだと思っている。お答えにはならないが、女の子で一番訴えているのは、死にたい理由が分からない、分からないけど、自分なんかいなくなった方がいいのではないかと。これは本当に寄り添うにもとても難しい。

丸木会長：今の発言に対して何か発言をしたい方はいるか。

飯島委員：現場の話だが、非常に発達障害の方が多い。特に傾向のある方だと、あまり自分のことを客観的に見られないというか、他人と自分を比較することもありできていないのではないかなと思う。言葉についても、非常にあやふやで、使い方を間違っていると思う。例えば死ぬとか殺すだとか、リアルな感じがしない。太田委員がおっしゃった通り、なかなか共有しにくいところがある。

丸木会長：精神科も小児専門や思春期の精神科というのは非常に少ないので、なかなか難しいと思っている。他にご意見がある方はいるか。

中西委員：今日いろいろデータを見ていて、本当に何が原因なのだろうと思った。著名人が亡くなった時にすごいグラフが上がっているというのは、なるほどと思ったが、それ以外にも色々な複合的な問題があり、弁護士会として何ができるのだろうと思った。今日のこの場、また今後も何か橋渡しになれることがあれば、例えば人権擁護の観点からとか、法の整備とか、そういった話ができれば良いと思った。今日は大変勉強になった。

丸木会長：今すぐ弁護士会にこれをしてほしいという事は中々ないかもしれないが、心強いご発言ありがとうございました。夜明けの会の井口委員はいかがか。

井口委員：多重債務に陥って相談に行く所がないということが一時期かなり多かったが、貸金業法の改正があってから、変わってはきていた。だが、統計を見ると自殺の原因の中で多重債務による自殺者が去年よりも50～60人ぐらい増えている。年齢でどこが多く増えているのか分からないが、若い子たちがネットですぐ簡単に借りられるような状況が多く、そういうところも原因なのかなと話を聞きながら思った。実際に相談に来る人たちも、50～60代の年齢が高い人が多いが、20代、30代が目立ってきている。簡単にネットで借りられる状況で多重債務になって、自殺者が多くなっているのではないかと最近考える。夜明けの会は、自助グループで、そういうふうにならないように頑張ろうという会なのだが、50代の人が一番多く、20～30代の若い人は入ってこない。自助グループは大事だと今つくづく思うところである。

丸木会長：リーマンショックの後、自殺者が増えたということも明らかにあるので、今問題になっているのは、ネットでお金を簡単に借りられてしまうということがすごく大きいと思う。

太田委員：発達障害の子供たちにどのように寄り添っていくのが一番いいのか等、飯島委員に相談に伺いたい。また、相談員のための研修のようなことはお願いできないか。

飯島委員：軽いものであれば可能かなと思う。

丸木会長：飯島委員、実際発達障害の方の自殺はあるのか？逆に発達障害があると、自殺まで行かないという印象を持っているのだが、現場ではどのような印象か。

飯島委員：今のところ私のところでは、発達障害で自殺したという方は、直接は聞いていない。先ほども言ったように、自殺や死んでやるとか、間違っ使われているというか、言葉が非常に軽いので、こちらとしてもどの辺まで寄り添っていいかわからない。何度も何度も言われてしまうとこちらも麻痺して

しまうところもある。今のところ自殺はないが、未遂の方は結構いる。

丸木会長:この委員会を通じてチャイルドラインに何らかの診療所協会と連携みたいなものができればいいかなと思うので、是非ともよろしくお願いしたい。かかりつけ医も含めて、自殺は多くの面からアプローチしないといけないと考えている。他に何かご意見はあるか。

芦沢委員:民生委員には個人情報に関係で、今伺ったような具体的な話はほとんど入ってこないのが現状である。今の子供達の環境はコミュニケーションが希薄化しているので、孤立孤独という状況に追い込まれることが出てくると思う。以前聞いた講演で、高校三年生が私を救ってくれたのは隣のおじちゃんですという講話があった。小さい時から顔をみて接している方が声掛けしてくると、子供たちの心が変わっていくのかなと思う。地域共生社会じゃないが、うまく連携を取りながら、皆さん方のように色々事例を持っている方と民主委員がつながって、民生委員が地域の方とつながっていくということで、悩みを打ち明けてくれる。毎日顔を合わせる中で、また違った話ができるのかなと思ったところである。

丸木会長:民生委員のお仕事は本当に大変だと思う。なり手が少ないことや、高齢化の問題があるので、そういうところは解決していかなければいけないと思う。ご出席の方に関してはご発言いただいたと思うので、これで議事は終了とさせていただきます。

#### 4 閉 会